

まちを育てる

アクションブック

カジュアルに
まちにかかわる



目指すまちの姿「ながくて未来図」

2019年度から10年間のまちづくりの指針となる第6次総合計画（愛称：ながくて未来図）。長久手に関わる人すべてが、目指すべき未来を共有する大切な計画。長久手市では、この大切な計画を、約2年かけて市民のみんなでつくりました。

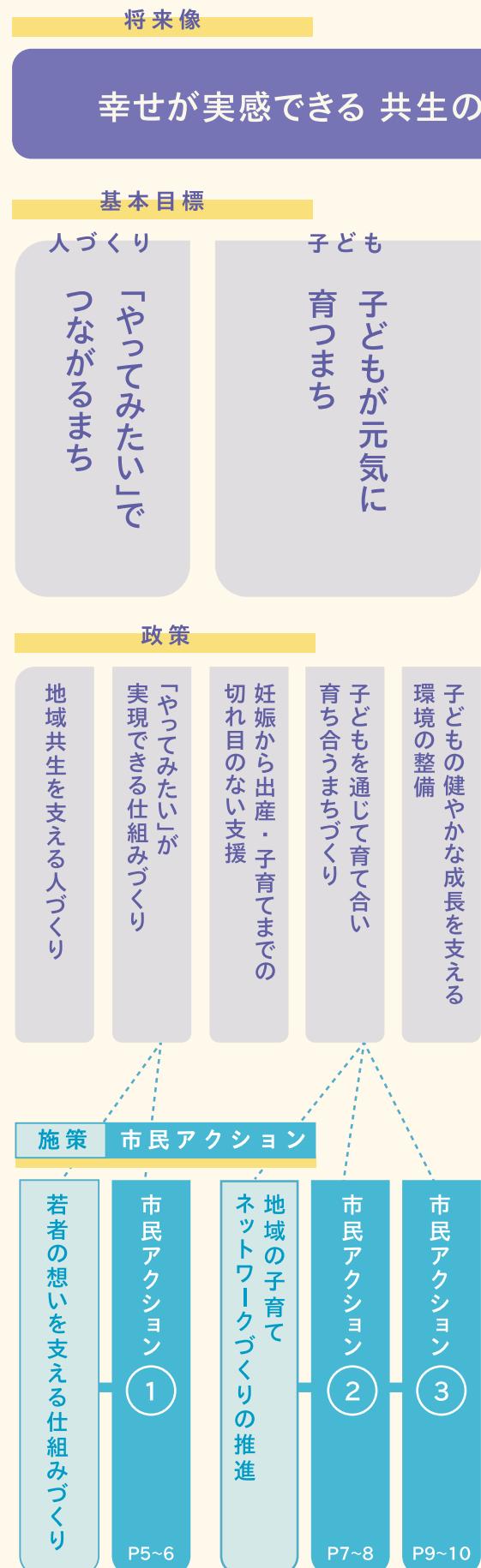
「ながくて未来図」では、まち全体の将来像として、「幸せが実感できる 共生のまち 長久手～そして、物語が生まれる～」を掲げ、さらに、分野ごとの目指す姿「基本目標」、基本目標実現のためにすべきこと「政策」、政策実現のための手段「施策」を位置づけています。また、長期を見据え、行政主導のまちづくりから、市民と行政が協働する「市民主体のまちづくり」への転換を目指し、「2050年に向け、市民主体のまちづくり文化の種を蒔こう！」を趣旨として策定したことが、この「ながくて未来図」の大きな特徴です。

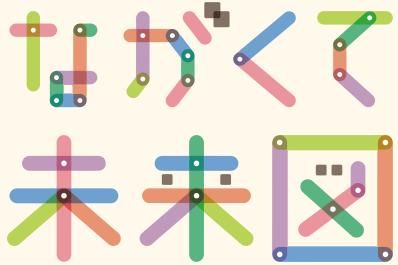
市民がまちにできること

市民主体のまちづくり？
難しそうだけど、自分がワクワクできること、
何か役に立てることがあればチャレンジしてみたい。

そして集まったメンバーが、それぞれがしたいこと・できることを考え、仲間をつくり、目指す未来に向かって市民で取り組みたいこと（＝市民アクション）を考えてきました。その過程で生まれた10の市民アクションをまとめたのが、「市民まちづくり計画」です。

今は、まだ10の市民アクションしか載っていませんが、長久手には既に様々な活動を行っている方達がたくさんいます。市民によるまちづくりの先輩にも協力をしてもらいながら、この計画を育てていく、そして、この計画をきっかけに、気軽にまちに関わる「まちづくりの仲間」がどんどん増えていくこと。
そんな想いを込めて、「市民まちづくり計画」は、生まれました。





まち 長久手 ~そして、物語が生まれる~

自然 環境

みんなで未来へつなぐ
緑はまちの宝物

生活

誰もがいきいきと
安心して
暮らせるまち

交流

いつでもどこでも
誰とでも
広がる交流の輪

都市 経営

あえて歩いて
みたくなるまち

万博理念を継承した自然との共生

農あるくらしの推進

地球にやさしい
持続可能な社会の構築

住み慣れた場所で安心して
暮らすことができる地域づくり

地域の課題をみんなで解決

いくつになっても元気で
いきいきと輝けるくらしの推進

まちの資源を生かした
市民同士の交流の促進

観光交流まちづくりの推進

外出しやすい環境の整備

暮らして心地よい生活環境の形成

豊かな自然環境の保全・活用

市民アクション④

P11~12

農の多様な担い手の育成

市民アクション⑤

P13~14

市民による助け合い・支え合いの
地域づくりの推進

市民アクション⑥

P15~16

市民アクション⑦

P17~18

市民アクション⑧

P19~20

魅力が広がる情報発信

市民アクション⑨

P21~22

公共交通の利便性の向上

市民アクション⑩

P23~24

計画づくりの過程

STEP 1

学生まちづくり甲子園(2018年2月10日)



市民まちづくり計画づくりに先立ち、長久手市民、長久手に通っている高校生、大学生を対象に、“学生ならでは”的視点で、まちづくりのアイディアを考え、発表する「学生まちづくり甲子園」を開催しました。

出場した学生は、市民まちづくり計画づくりにも参加しています！

STEP 2

第6回テーマ別検討会議(交流会)(2018年3月31日)



2017年度中に市民のみんなで検討してきた「ながくて未来図」を共有しました。また、「市民まちづくり計画」づくりの取組の最初の一歩として、参加者同士の交流会を実施しました。

STEP 3

市民まちづくり計画をつくる会議(2018年4月～12月)



「市民まちづくり計画」づくりに向け、チームを結成しました。5回のワークショップでは、目指す未来に向かい各チームが取り組む内容(=市民アクション)を検討。また、ワークショップでのアイディア出しだけでなく、出たアイディアを実践してみる「お試しアクション」といった取り組みを通して、市民アクションを検討しました。



第1回(2018年4月22日)

市民アクションのタネになるアイディア出し
一人ひとりの「やってみたい！」という想いを大切に、
「こんなことしてみたい」というアイディアを出し合いました。

第3回(2018年6月30日)

「お試しアクション」を考える
第2回で考えたチームで実現したいことを踏まえ、
まずはお試しで実践してみる
「お試しアクション」の内容を考えました。

第4回(2018年11月3日)

「お試しアクション」をふりかえる
各チームが8～9月に実施したお試しアクションの結果を「成果・課題・次への改善」に整理し、今後の取り組み内容を考えました。

第2回(2018年5月26日)

チーム編成・チームでできることを考える
想いが同じ人同士でチームになり
仲間づくりを行いました。
また、チームで実現したいことを考えました。

お試しアクションの実施

(2018年8月～9月)

第5回(2018年12月15日)

市民アクションを発表する
計4回のワークショップやお試しアクションを通して
考えた今後の取り組み(市民アクション)を発表し、想いを多くの市民に届けました。

STEP 4

市民まちづくり計画 編集・完成(2019年3月)

「冊子まとめチーム」を参加者有志で立ち上げ、編集作業を行い、「市民まちづくり計画」を完成させました。

市民アクション一覧

計画づくりの過程で生まれた10チームの市民アクションです。

まだまだ出来立てほやほや。

みんなの手でもっと大きくできたら。

- ① 学生の知識や特技を生かし、地域課題を解決する仕組みをつくる

P5~6

- ② 子どもたちに、地域での思い出をつくり、学校以外の居場所をつくる

P7~8

- ③ 子育て世代のつながりをつくる

P9~10

- ④ 子どもから大人までみんなが遊べる“場”(プレーパーク)をつくる

P11~12

- ⑤ より多くの市民に環境保全について知ってもらう

P13~14

- ⑥ 顔見知りを増やして、たくさんの人と交流できる地域をつくる

P15~16

- ⑦ 老若男女が、つながり、楽しみ、親しくなり、助け合う場をつくる

P17~18

- ⑧ 食を通じて地域住民の交流を図る

P19~20

- ⑨若い人や、観光客がもっと来たくなるような穴場スポットを見つけ発信する

P21~22

- ⑩ 公共交通の良さをみんなに知ってもらう

P23~24

- 計画を進める仕組み～育つ計画～

P25~28

学生の知識や特技を生かし、地域課題を解決する仕組みをつくる

1

チーム名

ボクラモ

チームの目指す姿 → 「やってみたい」が実現できる仕組みづくり

学生の「やってみたい」× 地域の「困った」

さまざまな分野の学生たちが、キャンパスを飛び出し、ここ長久手をフィールドに、学んだ知識を生かした「やってみたい」を実践し、まちの困ったを解決!!

チーム「ボクラモ」は、学生の「やってみたい」と地域課題をマッチングする仕組みを作ることにより、学生が活躍できる場を増やし、地域とつなぎます!!

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました

— チームのみんなの物語 —

Q. この市民アクションに込めた想いを教えてください

秋山さん 長久手にはいろんな知識を持った学生がたくさんいるのにその知識を生かせる舞台が全然ない! という僕たち学生の普段の悩みから立ち上げました。自分の周りにも学びを生かした活動がしたい! っていう想いを抱いている友達がたくさんいます。例えば、「街中で個展を開きたい」とか「周辺の学校と連携して日本一の

学生音楽フェスをやりたい」とか「学生だけお店を作りたい」とか。それ本当にできるの!?って言うものが多いです(笑)。でも案外やってみればできちゃうこともあります。こういう挑戦ができるのも学生の強みだと思います。しかもそういった学生のやりたいこととか学生が普段学んでることって、とってもまちに需要があるんですよ!!



まちづくりの現場に
学生が求められている

名古屋学芸大学3年 秋山 隼大さん

Q. 活動に参加していて何か気づいたことはありますか?



こんなに学生が
いるのに…?

高木さん 自分の周りにはこんなに面白い仲間がいたんだなと思いました(笑)。ボクラモがきっかけで他大学の人とも仲良くなりました。今では月に一回集まってご飯会も開いてます。活動を通して、このまちは多くの学生がまちの活性化を促す可能性を秘めていることを知りました。長久手にはこんなに学生がいるのに力を持て余す学生がいるのはもったいない! 今後はそんな学生たちが活躍できる舞台を作り上げたいです。



名古屋学芸大学3年 高木 雅哉さん

これまでのアクション

今までにない新しい防犯教室 「マチを守れ！カラーバン」を 学生の力で企画・運営

小中学生の中で大流行中のテレビゲームを模したアクティブな防犯教室を開催。真っ白な布をインクまみれにし、自分だけのオリジナル防犯ポスターが完成。心理学、デザイン、幼児保育を学ぶ計11人の学生を中心に企画、運営をしました。



【ここが POINT】

とにかく沢山の人に“想い”を伝え、 他団体とのコラボで企画を実現！

「こんなことしてみたい！」といろいろな人に想いを伝えると、「それならこの場所ならできるんじゃない？」「この人に頼んでみるといいよ！」と、まちのキーマンを紹介してくれました。今回のイベントは、西小校区まちづくり協議会のみなさんの協力で実現できました。

これからのアクション

学生のネットワークづくり

●長久手市内または周辺の学生がつながるネットワーク「ボクラモ実行委員会」を立ち上げ、学生のやりたいことと地域の課題をマッチングする仕組みづくりを行います。

※「ボクラモ」というチーム名には、「僕らも！まちの一員」という意味が込められています。



チームからのメッセージ

「学びを生かす場所が欲しい」
「このまちでこんなことやってみたい」
そんな学生の声に応えたい。

「様々な学生たちが集うイベントを開きたい」「大きなライブがしたい」「月に一回学生だけのお店を開きたい」「学生時代に何か功績を残したい」...あなたが密かに抱いている「やってみたい」が、まちを楽しくする種になる。ボ克拉モなら実現できるかもしれません。新たな仲間、協力団体大募集！

2

チーム名

ぐるぐる

チームの目指す姿 → 子どもを通じて育て合い育ち合うまちづくり

学校だけがすべてじゃない! 「子どもの居場所」づくり

学校以外にも、子ども達の居場所を地域にたくさんつくりたい!

チーム「ぐるぐる」は、「学校」以外にも「私たちの居場所があるんだ!」と

子どもたちに思ってもらえるよう、様々な手段で、子どもたちと楽しく思い出づくりをしながら、居場所づくりに取り組みます!

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました

— チームのみんなの物語 —

Q. この市民アクションに込めた想いを教えてください

安達さん 私の身边に、学校に通っていない子どもが結構いて、そうした子たちの中には、普通の授業には行かないけど、遠足とか学校でのイベントとかには参加すると聞きました。だから、楽しい場所が増えれば、そうした子どもたちにとっての居場所が増えるかな、と考え、自分たちが通う高校に子どもたちを招き、一緒に楽しいことをしよう、と思いつきました。今回は、調理室で一緒に料理をしましたが、今後は、他の教室でも遊んだりして高校を楽しい場所と思っ

てもらったり、あとは、「子ども食堂」にも興味があり、いつかやってみたいです。

奥田くん 小学生や中学生の子どもたちと年齢が近い高校生だからこそ、すんなり子どもたちと仲良くなれるのではないか、と思いました。今回は、自分の高校と特定の子どもたちだけでしたが、今後は、他校の高校生とも連携して、多くの子どもたちとつながり、高校生から子どもの輪をどんどん広げ、子どもたちの居場所がたくさんあるまちにしていきたいです。



高校生から子どもの輪を
広げていきたい

楽しい場所が増えれば
子どもの居場所が増える

栄徳高校2年 安達佳凜さん 奥田晃成くん

Q. 活動に参加していて何か気づいたことはありますか?



栄徳高校2年 野中健吾くん 河合建周くん

野中くん 長久手では、市民で一から「市民でできること」を考えてそれを実現していく、凄いと思いました。いろいろな人たちが協力し合うことで、まちは自分たちでつくつていけるんだな、という可能性を感じました。

河合くん 今まで大人の方を凄いと思ったことはあまりなかったのですが、今回の活動を通して、大人は、いろいろなアイディアがあるし、行動力もあるし、話もよく聞い

てくれるし、大人ってやっぱりすごいんだな、と思いました(笑)



これまでのアクション

高校の調理室が子どもたちの居場所に!? 「教室で遊ぼう!」と題し、地域の子ども達と一緒に調理で思い出づくり

夏休みの子どもたちの思い出づくりと地域での居場所づくりを目的に、地域の子どもたちを高校の調理室に招き、オムライスづくりを実施。最後に子どもたちに書いてもらった絵日記には、「楽しかった。おいしかった。」の文字が。メンバーと子どもたちも仲良くなりました。



【ここが POINT】

参加者集めに苦戦! 最後は、直接“営業”に行き、参加者を確保!

この企画で一番苦戦したのは、参加者集め。チラシをつくって、ただ待っているだけでは参加者は集まらないと思い、自分たちで企画を売り込む“営業”に行きました。話を聞いてくれたのは、名古屋文化キンダーホルトのみなさん。結果、キンダーホルトの子どもたちがたくさん来てくれて、つながることができました。

これからのアクション

特定の子どもたちだけでなく、多くの子どもたちの居場所づくりに挑戦

- 「食」以外にも「色々な手法(工作、スポーツ・・・)」を用いて、「より多くの子どもたち(市内全域)」の居場所づくりに挑戦します。
- 今後は、アクションの企画・運営から、老若男女問わず多くの人に関わってもらいたい。



チームからのメッセージ

今後のアクションの展開に向けて、新たな仲間、協力団体大募集!

料理が得意な人、工作が得意な人、人に教えることが得意な人、子ども会・PTAなど既に地域で子どもと関わっている人、地域で新しい居場所を作りたい人、子どもたちと「あんなことをやってみたい!」というアイディアをお持ちの人、・・・ぜひぜひ一緒に活動しませんか?

3

チーム名

子どもと遊び隊

チームの目指す姿 → 子どもを通じて育て合い育ち合うまちづくり

「遊び」から始まる、 親子のつながりづくり

子育て世代が多いこのまちで、子育てのことを身近に相談できる人を増やしたい!
 チーム「子どもと遊び隊」は、子どもたちがワクワクするような「遊びの空間」をつくり、そこに遊びに来た子ども同士、親同士が自由に交流でき、知り合い、つながれるような取組を実施していきます!

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました

— チームのみんなの物語 —

Q.この市民アクションに込めた想いを教えてください

田中さん 私は、行政が行うまちづくりのワークショップやイベントによく参加していますが、そこで感じるのは、「子育て世帯」30～40歳代の参加者が少ないということ。なんでかって考えると、「まちづくり」とか立派な大義名分があると、なんか特別な感じがしちゃって、「私には関係ない」って思っちゃうんじゃないかな。なので、このチー

ムでは、そういった大義名分は極力出さずに、ひたすら親子にとって楽しくて魅力的な場をつくり、一緒に遊ぶ中で、気づいたら親同士も子同士もつながっていて、結果的に困ったときに頼れるような子育てのネットワークが出来ていた、という形を目指すことにしました。



田中直子さん

「まちづくり」と掲げすぎると
参加しづらい人もいる

Q.活動に参加していて何か気づいたことはありますか?

連絡や調整の
難しさを知った



栄徳高校2年 篠原真季さん

田中さん まずは、「水鉄砲できる場所って意外とないんだな」って思いました。だからこそ、好きに水鉄砲をうててびしょびしょになるということがうれしくて、子どもたちが無邪気に遊べていたんだと思います。あと、参加してくれている大人も水に濡れることをいとわずに一緒に遊んでくれたっていうところも大きかったかも。子どもも大人も、「ありのままに自由に遊べる場」が、求められているんだなって感じました。私は、2018年の12月にNPO法人「ながいく」という子育て支援団体を立ち上げました。「ながいく」でも、「場づ

くり」を大事にしていて、活動を通して、子どもたちもその親たちも安心して過ごせる場を増やしていきたいです。

篠原さん 私は、チームのリーダーになったので、日程を決めたり場所を決めたりするのに、同じチームの大人の方たちと連絡を取り合うことが必要だったのですが、今まで大人の方とそうした調整をしたり、ましてやメールをすることもないで、どんな言葉を使えばいいのかさえ分からず、苦戦しました(笑)。あまりリーダーらしくできませんでしたが、みんなが優しくて助けてくれました。

これまでのアクション

夏の暑い日に、子どもも大人も楽しめる「ウォーターバトル」を開催

8月末の日曜日の夕方、リニモテラス建設予定地にて、子どもから大人まで誰でも参加できる水鉄砲を用いたウォーターバトルを開催。SNS等でイベントの周知をし、集まつたのは約40人の子どもたち大人たち。子どもも大人も関係なく水をかけ合い、みんなで盛り上がりました。



【ここが POINT】

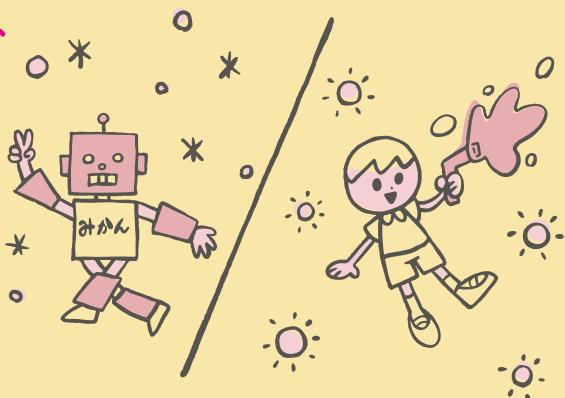
楽しい場所に、人は集まる

イベントを、リニモテラスの夏祭りとコラボして実施したことや、イオンモールに会場が近いこともあり、賑やかな雰囲気でした。そんな中、水鉄砲片手に楽しそうに遊ぶ人たちを見て、飛び入りで参加してくれた親子ちらほら。「楽しい」をキーワードにつながりを広げていく有効性を実感しました。

これからのアクション

夏だけでなく、冬も楽しい企画を実施し、多くの親子と遊び、つなげたい

- 夏だけでなく、冬も親子で楽しめる企画を実施したい。冬は、「暖ボールまつり」と題して、ダンボールで遊べる企画を検討中。
- 夏のウォーターバトル、冬の暖ボールまつりを毎年実施し、親子同士の交流やつながりをつくります。



チームからのメッセージ

水鉄砲、ダンボールも必要だけど、一緒に楽しんでくれる人が一番必要

イベントの実施については、出来るだけお金をかけず、いろいろな人を巻き込み、運営側も参加者側も垣根なく一緒に楽しみたいです！そのためには、一緒に楽しんでくれる仲間が必要です。興味のある方は、ぜひ一緒に遊びましょう！

4

チーム名

自然好き長久手
■

チームの目指す姿 → 万博理念を継承した自然との共生

自然を知り、守り、 自然の中で遊ぶ

長久手の豊かな自然を、もっとみんなに知ってほしい！

縁に触れ、みんなと一緒に自然を守り、生かして遊べる場所をつくりたい！

チーム「大好き長久手・自然隊」は、自然に触れる様々な体験をしながら、将来的には子どもから大人までみんなが遊べる“場”(プレーパーク)をつくります！

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました

— チームのみんなの物語 —

Q. この市民アクションに込めた想いを教えてください

渡辺さん 私は、現在はやっていないのですが、以前は平成こども塾のお手伝いに通っていました。こども塾には、授業の一環で小学生がたくさん来ていて、先生方の顔見知りも増えました。ある日、自宅へ帰る途中、小学校のそばを通ると、広い校庭の草取りを先生が一人で汗をかきながらやっているのを見て、「草取りくらいなら私もできるのになあ」と思いました。ちょうどそのくらいの時期に、「長久手市学生まち

づくり甲子園」を観に行き、高校生や大学生が自分たちでできることを発表しているのを聞いて、「自分でもできることをしたい」という想いが強くなり、この取組に参加しました。自然に触れるのが好きですし、草取りや花植えのようなことは私にもできるので、このチームの市民アクションに参加しています。若い人たちと一緒に汗をかきながら自分も一緒に活動できるのは、うれしいです。



渡辺 マチ子 さん

私にもできることがある



高校生だけでは
できない貴重な経験

思っていた自分がいなくなつた
「誰かにやつてほしい」と

栄徳高校2年 後藤望夢斗くん 青山大輝くん

Q. 活動に参加していて何か気づいたことはありますか？

後藤くん この活動に参加する前は、例えば公園が汚れていたら「誰か掃除してくれないかな」とか、「長久手にこんな場所があったらいいのに、誰かつくってくれないかな」とか、他の人に任せられるような考え方をしていました。でも、この活動に参加し、いろいろな大人の人と話したり、実際に一緒に活動する中で、「自分でもできることがあるんだ」とか、「こういうことをしてみたい」というように、「自分でやってみよう」と考えるようになりました。

青山くん 普段あまり話すことのない大人の方たちと接することができ、また、このチームで実施した自然保全の取組は、学校の授業や部活では体験できないので、貴重な経験でした。



これまでのアクション

プレーパークの候補地を見学

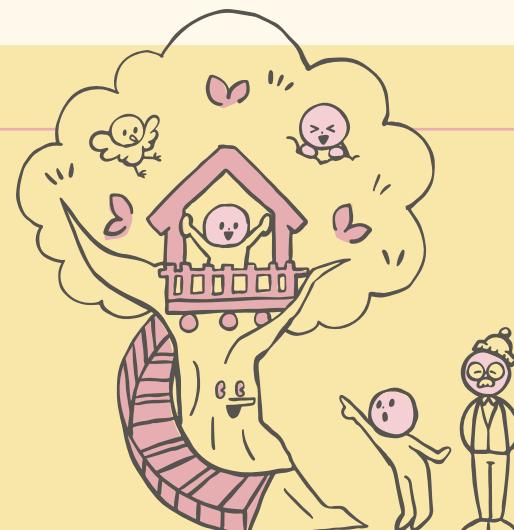
メンバーの一人が代表をつとめるNPO法人が借りている竹林を、将来的なプレーパークの候補地として視察し、そこにどんな場が作れるかを検討しました。
また、市内で里山保全をしている団体や花植え名人のもとへ話を聞きに行き、自然を知り、守り、活用する取組のヒントを探りました。



【ここが POINT】

まずはできることから、一歩一歩

「プレーパークをつくる!」という壮大な話に思えますが、いきなりそんな場をつくることは難しい。話が飛躍してしまいがちですが、まずは自然を知り、守り、活用するための取組から一歩ずつ進んでいくことになりました。できることをコツコツと、多くの人に協力してもらいながら、進んだ先に、みんなが遊べる“場”がつくれるのでは、と考えています。



これからのアクション

自然を知ろう!自然に触れよう!

- まずは、竹切り名人から竹林整備を学び、花植え名人から花植えを学び、自然に触れる取組を実施します。
- 子どもや学生と一緒に、自然に触れながら、学んでいきます。

チームからのメッセージ

奥深い「自然」について、
私たちにいろいろ教えてください!

「里山保全を指導してくれる人」「農業を教えてくれる人」「花について教えてくれる人」など、自然に関する先輩方、私たちにいろいろ教えてください!また、プレーパークの実施場所について、情報をお持ちの方はぜひ教えてください!

5

チーム名

自然環境に関する！

チームの目指す姿 → 農あるくらしの推進

知ってほしい、 長久手の「農」のこと

長久手の東部に広がる美しい田園風景。この風景を次の世代にも残していきたい。

チーム「自然環境に関して！」は、まずは耕作放棄地に注目し、自分たちが長久手の「農」の現状を知り、いろいろな人たちに伝えます！

そして、長久手の自然環境を守るためにも、「農」に興味を持ってもらえるような取組を実施していきます！

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました

— チームのみんなの物語 —

Q. この市民アクションに込めた想いを教えてください

松原さん 私は、長久手に生まれ、就職してから一度離れた以外は、ずっと長久手に暮らしています。退職してから、田んぼや畑を管理していますが、やってみるとなかなか大変な作業で、しかも、現状を維持していくだけでも結構なお金がかかり、今後も続けていけるかと言われると自信がありません。また、近所の人に聞いても自分と同じように、体力的な面や経済的な面か

ら、今後維持していくことが難しいという人ばかりでした。さらに、子どもたちも近くにいなかつたりと、後継者がいないという問題もあります。これは、高齢化が進むと、耕作放棄地は増えていき、もっと大変になるなど感じ、自分がずっと暮らしてきたまちへの恩返しの想いも込めて、この問題をもう少し掘り下げてみたい、と感じました。



「農」に対して、危機感があつた

松原永吉さん

Q. 活動に参加していて何か気づいたことはありますか？



市民でできること

行政ですべきこと

松原さん 活動をしてみて、耕作放棄地の問題の解決のためには、市民でできることと、行政ですべきことを役割分担して進めていく必要があると感じました。長久手の農をどうしていくのかといった全体の方針性やデータの収集、より農に関わる人が増えるような仕組みづくりについては、行政にしかできないと思います。しかし、その

ような方向性や仕組みに沿って、実際に活動していく部分は、市民が関わる余地があります。お互いに連携して進めないと良いと感じました。特に、このテーマに興味のある人を集め、ざっくばらんに話し合うことから始め、一緒に活動していくきっかけをつくることは、市民レベルでできることだと思いました。

これまでのアクション

自分たちの目で、耕作放棄地の現状を確認

長久手の東部をまち歩きをして、耕作放棄地が市内にどれくらいあるかを1つ1つ調査し、見て分かる図にまとめました。また、行政の耕作放棄地に関する施策を勉強し、自分たちでできることを検討しました。



【ここが POINT】

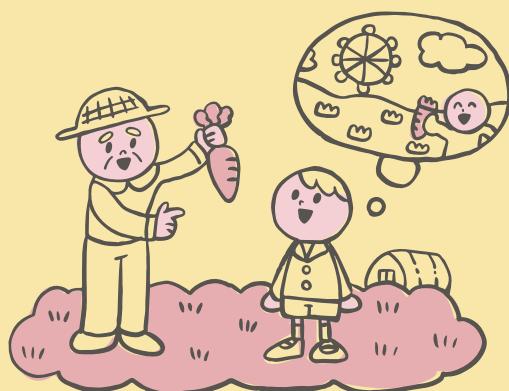
まずは「知る」ことから

机上で、ああだこうだ議論していても、長久手の農に興味を持ってもらえるようなアイディアは浮かんでこないと考え、まずは、自分たちの目で、耕作放棄地の現状を見てきました。併せて、行政の担当課と勉強会を開催し、いろいろなことを「知る」ことができ、自分たちに求められていること、できそうなことが徐々に見えてきました。

これからのアクション

長久手の農地の現状を多くの市民に知らせたい！

- 自分たちが、長久手の「農」について、いろいろ知ってきたように、他の多くの市民にも知らせていきたい。
- 農業をやりたい人の気持ち、農地を貸したい人の気持ちを知り、マッチングを目指す「農地お見合いパーティー」を開催します！



チームからのメッセージ

荒れた耕作地をなんとかしたい
という気持ちが強くなった

一朝一夕でできることではなけれど、美しい田園風景を守るために、できることはしていきたいです！
農地の管理に困っている人、農に興味がある人集まれ～！

6

チーム名

おしゃべり隊



チームの目指す姿 → 地域の課題をみんなで解決

あいさつから、 はじめてみませんか？

つながりが大事とは分かってるけど、
何から始めたらいいだろう？そう、あいさつ！！
チーム「おしゃべり隊♡」は、あいさつがまちの日常風景になり、
多くの人同士が顔見知りになり交流できるまちになることを目指して、
定期的にゴミ拾いをしながら、あいさつや声かけ活動を実施していきます！

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました

— チームのみんなの物語 —

Q.この市民アクションに込めた想いを教えてください

川口さん このチームができる前から、私は、月に1回、南小学校区のゴミ拾いを約6年くらいやっていました。最初は一人で始めた活動でしたが、ゴミを拾っているうちに、あいさつをするようになり、声をかけるようになり、逆に声をかけていただくようになりました。あるとき声をかけた人に、「一緒にやりませんか？」とお誘いしたら、参加してくれるようになりました。そのとき、「それ違った人とあいさつをしたり会話をしたい

な、と思ったときに、「ゴミ拾いをしながら」というのは有効だな」と気づいたんです。なので、このチームで、地域がつながり支え合えるまちにしたい、という話が出たときに、ゴミ拾いしながら活動するのがいいのでは？とみんなに提案し、それが実現しました。あいさつや声かけは、人とのつながりをつくるきっかけになると思います。あと、やっぱりゴミがないきれいなまちに住んでいることは、誇らしいことだと思います。



川口美智子さん

ゴミ拾いは、
人とのコミュニケーションツール

Q.活動に参加していて何か気づいたことはありますか？

川口さん ゴミ拾いを続けていると、いろいろなまちの変化に気づきます。特に、南小学校区は学生が多く住んでるので、アパートのゴミの量や干された洗濯物を見て、「あ、夏休みに入ったな」とか「休みが明けて学校が始まったんだな」とか、いろいろな変化に気づきます。あと、捨てられたゴミを見て、ゴミを捨てた人の生活を想像することもあります。いつも同じ場所に捨てられているビールの缶を見て、「あ、この人は家でお酒を飲みづら

いから、コンビニでビールを買って、家に着くまで飲んで、バレないように缶をポイ捨てるんだな」とか想像したり(笑)。ゴミ拾いでも、いやいやするのではなく、何か新しいことを発見しようとアンテナを張っていれば、とても楽しい活動になりますし、私は捨てられたゴミからいろいろ想像したり発見することが楽しいです。また、地味な活動ですが、こうした積み重ねが住みよいまちにつながっていると考えると、頑張ろうと思えます。



これまでのアクション

公園内とまちなか、 別々の場所でゴミ拾いしながら あいさつや声かけを実践

1回目は、杣ヶ池公園内で、ゴミ拾いしながらあいさつや声かけ活動を実施。あまり声かけができませんでした。
2回目は、グリーンロード沿線を、活動していることが分かるようオレンジのベストを着て、実施しました。



【ここが POINT】

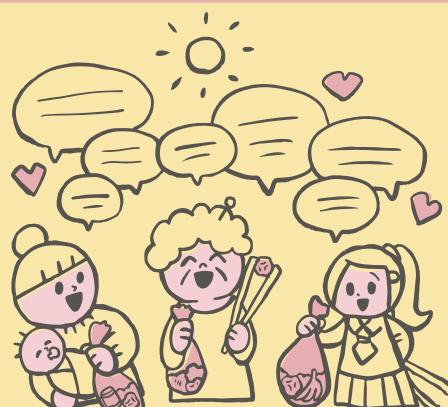
声をかけるって、意外と勇気がいる

「まちづくり まずは笑顔でこんにちは」というけれど、知らない人に気軽にあいさつをするって、いざやろうすると難しいことが分かりました。また、声かけとなると、なおさら難しい。でも、ゴミ拾いしながらだと、「怪しい人」とは思われないから、比較的あいさつしやすいことに気づきました。

これからのアクション

もっといろいろな人の話が聞きたい!

- 声をかけていく中で、防犯や防災、高齢化社会、地域のお困りごとなど、その人が抱えているいろいろな問題や課題を引き出していくみたいです。
- 幅広い年齢の声を聞きたいので、子育て世代のママ、高校生、高齢者などの話を聞きやすい場所探しが必要だと考えています。



チームからのメッセージ

まずは、気軽に参加してほしい!

ゴミ拾い実施日の周知をしたり、既存のボランティア団体等とコラボていき、いろんな人に気軽に参加をしていただけるようにしていきたいです！

7

チーム名

もちより場

チームの目指す姿 → 地域の課題をみんなで解決

もちよりでつくる、 みんなの場

誰かに用意してもらう場ではなく、みんなのほんのちょっとずつの“もちより”ができる場は、あったかいはず。

チーム「もちより場」は、何かをするときの材料のみならず、いろいろな方が持つ知識や経験、技などを持ち寄ることで、老若男女が、つながり、楽しみ、親しくなり、助け合う場をつくるための取組を実施していきます！

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました

— チームのみんなの物語 —

Q. この市民アクションに込めた想いを教えてください

岩崎さん 2年前に長久手に引っ越ししてきたんですけど、こっちには知り合いが居なくて少し心細かったので、ずっと地域住民とのつながりが欲しい！と思っていました。そんな時に長久手市の市民アクションを知りました。「これから過ごしていくこのまちで、自分の意見や提案も反映させていきたい！」と思っていたタイミングでもあったので、すぐ仲間入りしました。市民アクショ

ンでは、僕と同じ境遇の方々や老若男女様々な人たちが「交流」できる場所を作りたい！という思いで、地域でバーベキューを実施しました。ただ実施するのではなく、皆が「食材」や「知恵」、「経験」をもちよってそれらを共有しながら楽しめる場づくりを目指しました。「日常では学べないことを学べる場」「老若男女の交流の場」としてこれから発展させていきたいです。



地域住民との
つながりが欲しかった

岩崎大輔さん

遠回りでいいからゆっくりと



Q. 活動に参加していて何か気づいたことはありますか？

岩崎さん 今回バーベキュー会場に使わせていただいた施設もそうですが、長久手には案外多様な使い方ができる施設が多いいっぱいあるんじゃないかという可能性を感じました。場所を知るという意味でも、「こういった施設の使い方があるんだ」と、とても勉強になりました。それからもう一つ。何事もハードルを下げてまずはやってみることが大事だなと思いました。僕はもともと「効率重視の人間」なんですけど、最近の仕事や市民アクションで、「その場でゴー

ルへの最短距離を考えるより、とにかくやってみることって大事だな」と思うようになりました。たとえそれがゴールへの最短距離じゃないとしてもやってみたらそこには必ず「サブストーリー」に出会うんですよ（笑）。このサブストーリーの積み重ねが、ゴールに達した時の喜びをより大きくさせるんです。だから、遠回りでもいいから、たくさん的人に出会い、たくさんのことを学びながら、コツコツと「チームもちより場」を広げていけたらいいなと思っています。

これまでのアクション

防災体験をしながら、 ご近所でわいわいバーベキュー

9月1日防災の日に、市内のデイサービス施設「やさしいところ」をお借りし、参加者の持ち寄りによるバーベキューを開催。いざというときに役立つ「火起こし」や「飯ごう」も、みんなで体験しました。老若男女が集まり、「知恵や経験」(防災の知恵や、サンマの焼き方等)の持ち寄りにより、学びが広がる場になりました。



【ここが POINT】

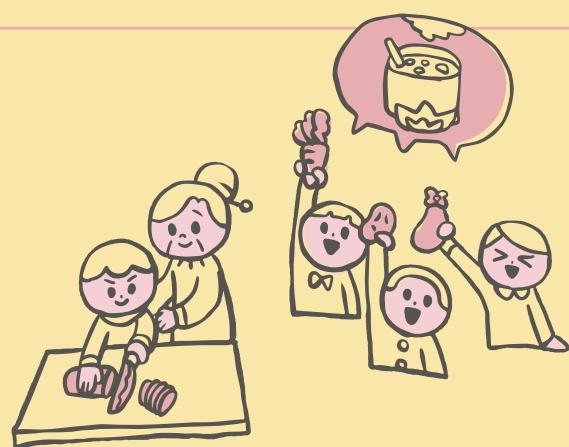
材料の持ち寄りだけでなく、 「知恵や経験」の持ち寄りもあるんだ

当初は、材料の持ち寄りのみを想定していましたが、ベテランの方々が、いざというときに役立つ知恵を若い世代に教える場面があり、こういう持ち寄りの形もあるんだな、と感じました。そして、いろんな人たちが自分の持つ少しの資源を持ち寄り、できる場はあたたかいと感じました。

これからのアクション

交流の場づくり+体験の場づくり

- 他の地域でも、バーベキューのように、いろんな方が気軽に交流できる場をつくっていきます!
- 昔のモノづくり体験や、昔の遊び体験など、高齢の方の知恵や経験を持ち寄り、子どもと体験できる場をつくっていきます!



チームからのメッセージ

老若男女がつながり、
楽しむがモットー

みなさんの知恵や経験で、一緒に楽しい場づくりをしましょう!あなたの持つ知恵や経験は、きっと誰かの役に立つはずです!

8

チーム名

わいパクチーム

チームの目指す姿 → 地域の課題をみんなで解決

食を通して、 ワイワイがやがや

知らない人同士でも、一緒においしいものを食べたら、

自然に話もはずみ、仲良くなれます。

「わいパクチーム」は、みんなが大好きな「食」を通して、地域の人が交流できる機会をつくりていきます！

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました

— チームのみんなの物語 —

Q. この市民アクションに込めた想いを教えてください

横井さん このチームは、地域のつながりづくりを目標にしていますが、「さあ、つながりをつくりましょう」と言って、つながりが生まれることはなかなかないと思います。でも、同じテーブルを囲み、食事をすることで、「おいしいね」とか自然に会話が生まれ、仲良くなれると思い、食をテーマにしたつながりづくりを目指しました。私は、「DoNabe net in あいち」という学生団体に所属して

おり、その団体でも食を通したつながりづくりの活動をしています。普段は、学生だけで活動していますが、このチームでは、地域の大の方たちもいて、そうした方のネットワークやアイディアがあると、学生だけではできないようなことが実現でき、活動の幅が広がりました。学生同士の枠を飛び出すことで可能性が広がることを実感しています。



愛知県立大学3年 横井里帆さん

「おいしいね」は、
会話が生まれる魔法の言葉

まちづくりの
イメージが変わった



愛知県立大学3年生 黒田奈央さん

Q. 活動に参加していて何か気づいたことはありますか？

黒田さん 私は、「まちづくり」と聞くと、会議室で難しい話をしているような固いイメージがありました。でも、この活動に参加してみて、意見を言い合う場はいつも話しやすく明るい雰囲気で、お話ししたり一緒に活動する他の参加者の方たちもみんなさん優しくて、「まちづくり」は楽しいものなんだ、というようなイメージに変わりました。また、様々な価値観を持つ方たちと話すことで、「私はこういう考えを持っていたんだ」

と気づくことができ、自分の新たな一面を知ることができました。学生生活では、どうしても学生同士のいつものメンバーと話すことが多いですが、いろいろな世代の自分とは異なった価値観の方と話すことは大切だと実感しました。

これまでのアクション

地域のみんなで、夏の風物詩 「竹で流しそうめん」

9月に地域の拠点「西小校区共生ステーション」にて、子どもから大人まで約50名の方が集まり、竹で流しそうめんを楽しみました。12月には、同じ会場で行われた「まち協フェスティバル」で、七輪で焼きマシュマロをつくり、子どもたちを中心に約150名が楽しみました。



【ここが POINT】

実現できるのか!?

救ってくれたのは、様々な方たちの協力

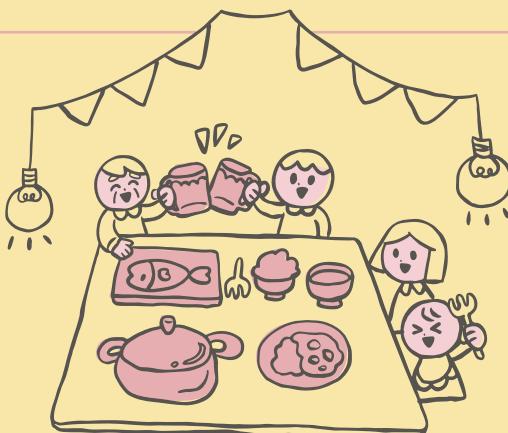
「竹はどこから持ってくる?」「会場はどうする?」「人が集まるかな?」など、自分たちのチームだけでは解決できない課題が多く、一時は内容の変更を考えました。しかし、会場や人集めには西小校区まちづくり協議会の協力、竹は市内のNPO法人の協力、そうめんはJAの協力、その他多くの方々の協力により、実現できました。

これからのアクション

ぶれずに、食を通じた地域交流を貫く

●例えば、「自然の中で食べる」や「地域の伝統的な食べ物」というように開催場所やテーマについても考えながら、「食」を通して交流を図るというスタンスはこれからも貫きます!

●大人向けのアルコールありの会もいつかはやりたいです!



チームからのメッセージ

やりたいと思うことをやる!

あれこれ考える前に、「やりたい!」と宣言し、無理なく、楽しく、いろんなことにチャレンジしていきたいと思います。食べることが好きな方、ぜひ一緒に活動しましょう!!

若い人や、観光客がもっと来たくなるような穴場スポットを見つけ発信する

9

チーム名

スポットスポット

チームの目指す姿 → 観光交流まちづくりの推進

長久手のいいところ、 見つけたい。発信したい。

長久手には、いいところがいっぱいある！

もしかしたら、まだ多くの人が知らない魅力があるのでは。。。

チーム「スポットスポット」は、若い人や、観光客がもっと来たくなるような穴場スポットを自分たちで見つけ、SNSなどでどんどん発信していきます！

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました

— チームのみんなの物語 —

Q. この市民アクションに込めた想いを教えてください

堀井くん このチームは、高校生を中心のチームです。だから、高校生ならではの視点を生かしたいと思っていました。しかも長久手は若いまちなので、なおさら高校生の視点は生かせるのではないか、と考えました。そこで、このチームでは、高校生である自分たちが魅力だと感じた長久手のいいところをどんどん発信して、若い人に興

味を持ってもらい、観光客を増やしたり、住んでいる人にももっと長久手のことを好きになって欲しいと思ってます。実際、僕は、名古屋市民で長久手のことはあまり知りませんでしたが、活動を通して長久手の自然などの魅力を知り、長久手への愛情が深まりました。



若いまちだからこそ、
若いパワーをもつと！

栄徳高校2年 堀井健生くん

Q. 活動に参加していて何か気づいたことはありますか？

加藤くん 長久手には高校が2つあり、大学もたくさんあります。これから先の未来をつくっていくのは僕たち若者だと思うので、若者が率先して長久手のことを考え、意見を言う場に参加して、大人に混ざって、自分の意見や想いを伝えることが大切だと感じました。また、いろいろな世代の方と話す場に参加することで、高校生同士で話すときは違うことも気をつけなければいけなかったり、伝え方を工夫しなくていいけない、ということに気づくし、いろいろな価値觀に

触れることができ、自分の成長にもつながっています。だから、もっと多くの学生に参加してほしいなと思いました。



高校生や大学生の
仲間をもっと増やしたい

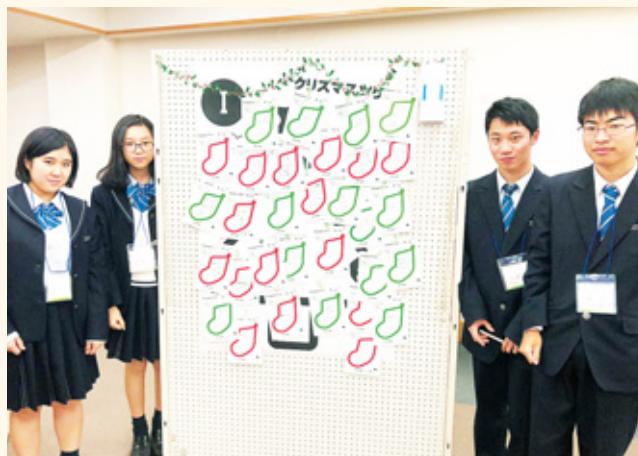


栄徳高校2年生 加藤一真くん

これまでのアクション

自分たちが見つけたまちの魅力を インスタグラムで発信

メンバーで集まり、まちを歩き、見つけた魅力をインスタグラムで発信しました。また、この活動を知ってもらい、より多くの人に協力してもらうため、周知するチラシを作成し、協力してくれた店舗に貼ってもらいました。



【ここが POINT】

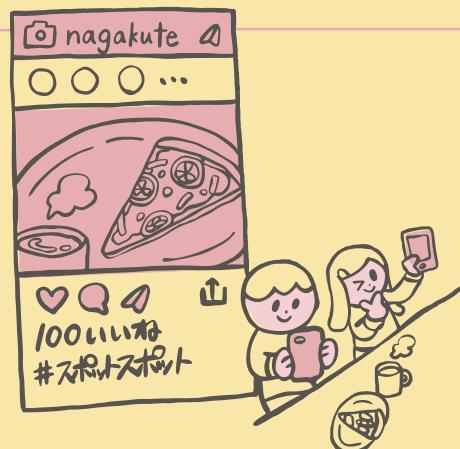
“自分たちの言葉”で伝える

実際にインスタグラムで投稿したのは、素敵な市内のカフェの様子。お店の雰囲気や料理の写真、メニューなど、私たちと年齢の近い友達や大学生の方々の心に響くよう、自分たちの言葉で伝えることを意識しました。

これからのアクション

継続は力なり。活動を続ける！

- いろいろなまちの魅力を見つけ、インスタグラムで発信することを継続していきます。
- チラシを芸術大学の方につくってもらったり、観光交流協会とコラボしたりし、幅広い層に長久手の魅力を伝えていきます！
- 高校生チームで活動しているため、活動費が今後の課題です。



チームからのメッセージ

ぜひ、インスタグラムで
フォロー&いいね！を

「アカウント名：spotspot_n」

「ハッシュタグ：スポットスポット」

で投稿していきます！ぜひひフォロー&いいね！をお願いします！活動の励みになります。また、市内の魅力も集めていきます！長久手に詳しい方、協力をお願いします！

10

チーム名

N-eco（ネコ）

チームの目指す姿 → 外出しやすい環境の整備

意外と便利!? 意外と楽しい!?

公共交通のススメ

長久手には、リニモや N-バス、名鉄バスなど、みんなの移動を支える様々な公共交通手段があります。チーム「N-eco」は、そんな公共交通を、みんなにもっと知ってもらい、使ってもらい、もっと愛されるものにするため、公共交通の使い勝手の研究や、「そんな使い方ある!?」というような楽しい使い方を提案していきます!

あんなことやこんなこと

team member interview

チームのみんなに聞いてみました

— チームのみんなの物語 —

Q. この市民アクションに込めた想いを教えてください

今井さん このチームでは、他のチームの市民アクションと少し趣向が異なり、「いかに生きたデータを蓄積できるか」を意識したと思います。いいデータが蓄積されれば、そのデータを眺め、より良くするための策を考えられるし、改善してやってみて、データがどう変化したかをさらに見ていくことで、持続的にアクションを発展させていくことができます。この考えのもと、今回の

アクションでは、同じ移動を移動手段ごとに比較検証することにしました。やってみると、いろいろなことがわかります。こうしたデータを蓄積し活用し、長久手の公共交通がよりよくなるといいな、と思っています。最終的には、この「データを取る」という行為自体をイベント化できたらいいな、という野望もあります。



今井純志さん

生きたデータを集めたい

Q. 活動に参加していて何か気づいたことはありますか？

今井さん もしかしたら他の参加者ではあまりないパターンかもしれません、私は長久手にある企業に勤めています。最終的には、企業として長久手市に貢献できたらいいな、とは考えていますが、在勤であると同時に、私は一市民でもあるので、まずは「市民としてできること」を考えようと思い、参加しました。その結果、一市民としてできることもあれば、より広がりを持った活

動をするために、企業が絡んでいくことの必要性を感じました。また、参加してみて、多くの学生がまちづくりに関わっていると感じました。長久手は「学生のまち」があるので、こうした学生個人個人の活動を、ゼミや学部、大学と連携した取組に発展させていけると、より「学生のまち」としてのポテンシャルを生かせるのではないか、と感じました。

長久手在勤だからこそ、
できることの可能性を探る

これまでのアクション

比べてみよう!長久手市の公共交通 ～それぞれの移動手段の比較調査～

文化の家からイオンモール長久手までを、リニモ・N-バス・車・自転車・徒歩それぞれの手段で移動し、かかった時間や費用、移動してみて感じたメリット・デメリットをまとめました。その結果を公共交通交流会で展示しました。



【ここが POINT】

そんな使い方があったの!? 見えた、公共交通の可能性

実際に様々な移動手段を使ってみて、使った感想を語り合るのは、思ったより楽しかったです。また、その結果を公共交通交流会で展示していたとき、「私は子どもを連れて“散歩”的つもりでN-バスを使っています」という方が。まさに、散歩ならぬ“散バス”!?公共交通の新しい使い方だな、と感じました。

これからのアクション

公共交通を知って欲しい!使って欲しい!

- 他の団体とコラボして、様々な移動の目的地に対して、いろいろな交通手段を、どのように組み合わせて使うとどこが便利か不便かを試し、感想を集め、結果をまとめ、データを蓄積します!
- 公共交通をまず使ってもらうことを目的に、長久手公共交通ごろくを実施します!



チームからのメッセージ

公共交通の可能性を探り続けたい!

他団体とのコラボ調査で、データを蓄積し、分析。そして、公共交通を使ってもらうためのイベントの開催。これらを通して、公共交通の可能性を探り続けます! 協力してくれる団体さん、募集しています!

計画を“進める”仕組み～育つ計画～

「市民まちづくり計画」は、ずっと、未完成の計画です。

これから、多くの市民のみんなに関わってもらい、大きく育てていきたい。

できて完成ではなく「育つ計画」。

そして、この計画をきっかけに、長久手の友達をどんどん増やし、つながりを育て、

まちづくりの仲間をたくさんつくる。

この計画を育てて行く先に、「市民主体のまち」が見えてくるのかも信じて。

ここからは、そんな計画を育していくための、具体的な3つの仕組みを紹介します。

仕組み1

既にある「市民アクション」を育てる

「市民まちづくり計画」づくりで生まれた10チームの市民アクションが持続し、
よりパワーアップしていくためには、多くの方の関わりが必要。

10チームの市民アクションのいずれかに「興味がある」「一緒にやりたい」

「協力できる事がある」「応援したい」等の想いを持たれた方は、

仕組み1をご覧ください。[→P26へ](#)

仕組み2

新しく「市民アクション」を加え、育てる

「こんなことしてみたい!」という想いがあっても、

なかなか一人で立ち上がり、アクションを起こすことは難しいもの。

そんなとき、想いに共感し、伴走してくれる仲間がいれば心強いはず。

漠然とこんなことしてみたい!ということがある方は、仕組み2をご覧ください。

※既に活動している団体の方が、この計画に参加するための方法についても、

仕組み2をご覧ください。[→P27へ](#)

仕組み3

「つながり」を育てる

それぞれの市民アクションをバラバラにやるのではなく、

チーム同士で協力したり、既に活動している団体さんの力を借りたりしたら、

思わぬ「つながり」が生まれ、相乗効果が期待できるかも。

そして、より多くの市民がこの計画を知り、それぞれが出来ること、

持っている資源を持ち寄り、関わってもらうことで、できることは無限大に。

チームや団体とのつながりを生む、新たにこの計画に興味を持ってもらい、

関わってもらうための仕組みを、仕組み3で紹介します。[→P28へ](#)

仕組み 1

既にある「市民アクション」を育てる

1

興味のある市民アクションを見つける

この冊子を読んだり、市ホームページをみたりして、市民アクションの情報をGET！
興味がある、協力できそうな取組を見つけよう！

2

事務局(経営企画課)へ連絡 ※連絡先は裏表紙に記載しています

興味がある、協力できそうな取組を見つけたら、事務局(市役所経営企画課)へ連絡！
各チームの今後の活動の予定や集まる日にちをお知らせします！

3

実際に、活動に参加

実際に、興味のあるチームの取組に参加し、一緒に活動してみましょう。
一緒に活動する中で、「楽しい！ 続けたい！」「いい人ばかり！」
「ちょっと自分には合わないな」等の感触を確認！

4

これで、あなたも仲間に！

これからもチームの取組に参加したいと思ったら、
チームメンバーにその意思を伝えましょう！
これで、あなたも「市民まちづくり計画」と一緒に進める仲間です！

仕組み 2

新しく「市民アクション」を加え、育てる

1

「こんなことやりたい！」の想いを育てる

1・2ページの「目指す未来」を確認し、その未来を実現するために、「こんなことやりたい！こんなこと出来そう！」という想いを育てましょう。

2

交流会に参加し、プレゼン & 仲間集め

毎年夏頃、この計画に携わる人、興味のある人が集う交流会を開催します（右ページ参照）。新たにやりたいことがある人は、その場で想いをプレゼンする機会があります。想いに共感し、一緒に活動してくれる仲間を集めましょう。

3

お試しで活動してみる

仲間が集まったら、多少計画が粗くとも、まずは、簡単なところから一歩踏み出し、活動してみましょう。活動する中で、うまくいったことや気づいたこと、失敗したことを探し出しましょう。

4

これで、あなたも仲間に！

お試しで活動した結果を踏まえ、今後の取組を考えましょう。今後の取組を考える中で、必要なことが見えてくるはず。市民アクションシートを事務局に提出すれば、これであなたも「市民まちづくり計画」を進める仲間です！

※既に活動している団体の方については、1～3 の流れは省略できます

仕組み 3

つながりを育てる



夏の交流会

～新たな出会いを楽しむ・つながりを育む～

毎年夏頃、この計画に携わる方々、
そして、興味を持ってくれた人が集う交流会を開催。
その交流会では、新しい出会いを楽しみ、様々な人と交流する中で、
思わぬコラボが生まれたり、チーム同士・既に活動している団体との出会いから、
相乗効果が生まれたり、「やってみたい」の想いから、仲間が集い、
新たな市民アクションが芽吹いたり。
そんな場所にしていきたいと考えています。



冬の発表会

～これまでを振り返る・これからを考える～

毎年冬頃、この計画に携わる市民アクションのチームが、
この1年の取組を振り返り、次の1年の取組を考え、
多くの方の前で発表します。
その発表会では、お互いに1年間の活動をねぎらい合ったり、
次の1年に向けて気持ちを新たにしたり、
新たな協力者が現れたり、
自然に応援し合う温かい拍手が生まれたり、
そんな場にしていきたいと考えています。

「市民まちづくり計画」を進めるための1年の流れ



～市民の動き～

仕組み2

既に活動している団体

事務局の動き

新しく市民アクションを
起こしたい市民

- やりたいことがある人は、
プレゼン

- 仲間集め

- チームが組めれば、お試し
アクションの準備

- 発表会準備(お試しアクション
の結果・今後の取り組み)

- 発表

- 市民アクションシートの作成

- 市民まちづくり計画に興味のある団体は、事務局の説明を聞く

- ゲストとして参加

- 市民まちづくり計画に参画いただける活動団体は、発表会の準備(これまでの取り組み)

- 市民まちづくり計画に参画いただける活動団体は発表

- 市民まちづくり計画に参画いただける活動団体は、市民アクションシートの作成

- 活動のサポート(人的支援や物資の支援、情報発信、相談窓口)

- 各チームの活動に興味のある人から連絡があれば、チームにつなぐ
- 興味のある人を増やすような情報発信

- 春に市民まちづくり計画を送付
(趣旨説明・協力依頼)
→団体から反応があれば、直接説明に伺う
- 交流会への参加依頼

- 当日の運営

- 活動のサポート(人的支援や物資の支援、情報発信、相談窓口)

- 各チームの活動に興味のある人から連絡があれば、チームにつなぐ
- 興味のある人を増やすような情報発信

- 仲間集めの支援
- お試しアクションの支援

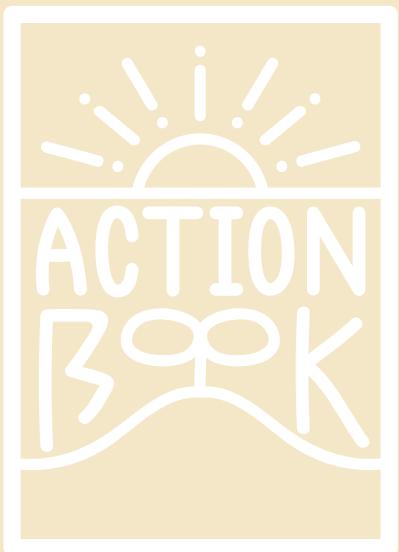
- 市民まちづくり計画に参画いただける活動団体のサポート
- 発表会への参加依頼

- 当日の運営

- 市民アクションシート作成の支援

- シートの回収、とりまとめ

(市民アクション一覧+各チームの市民アクションシート)



表紙に込めた想い

表紙を飾る植物は「ガジュマル」という木です。
ガジュマルの木は根が太く、生命力がとても強い植物です。
この木は「他の木や地上の岩」など、色々なものに根を絡ませながら育っていきます。
そんなガジュマルの木のように、「多くの人々を巻き込んで、
たくさんの方々と交わり合いながら、私たちのまち長久手を育てていきたい」。そんな気持ちを込め制作しました。
「ガジュマル」→「カジュアル」の洒落も交え、表紙のフレーズは
『カジュアルにまちにかかわる』に。まちづくりは決して堅苦しい
ものではなく、ラフで気軽にまちに関わってほしいという想い
を込めました。

長久手市市民まちづくり計画 まちを育てるアクションブック

発行日

2019年3月

発行

長久手市市長公室経営企画課

〒480-1196

愛知県長久手市岩作城の内60番地1

TEL 0561-56-0600 FAX 0561-63-2100

E-mail keiei@nagakute.aichi.jp

構成

市民まちづくり計画 冊子まとめチーム

(秋山隼大・古室乃武男・高橋豊・野田久徳)

冊子デザイン・イラスト

(秋山隼大・豊嶋優奈)